The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集「教室のIT化 ： 教育現場を活性化させるIT技術の最前線」
Author(s)	西森, 年寿
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 11, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70293
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特集

特集：教室のIT化ー教育現場を活性化させるIT技術の最前線

大阪大学 大学院人間科学研究科　西森 年寿

かつて大学に入学したとき、自分の興味・関心で講義を選べて、その選択肢の中には、本などもたくさん書いておられる著名な先生の授業も含まれていることに、ひどく自由で、世界に直接つながる場所に来たのだなぁという感慨があったものです。

時代は流れ、この秋に出版された梅田望夫・飯吉透両氏による「ウェブで学ぶ　ーオープンエデュケーションと知の革命」(ちくま新書 2010) には、WEB 上で展開されるオープンエデュケーションの動向が紹介されています。ネット上で、著名な研究者や優れた教育者の授業を自分の好きなように受講できるオープンエデュケーションは、かつて私が大学の授業に感じたものにどこか似ているような気がします。グローバルに通用する質の高い教育内容と自由な学び、それらを WEB が純化させて大学から取り出したかのようです。

今後、徐々に充実していく WEB 上のオープンエデュケーションは、大学の教室での授業に何らかの影響を与えるのでしょうか。例えば、対局の WEB にグローバルで自由な環境が実現したのであれば、教室はローカルで強制力を持った教育へと方向づけられるのでしょうか。人と人の対面での接触を基盤とした、より濃密なインタラクションが求められるようになっていくのでしょうか。

IT は、そうした外側から授業に影響を与えるとともに、内側からも授業のありようを変質させていきます。教室へのプロジェクタの配備がその一例です。パワーポイントによる資料提示は今や当たり前の風景となりました。そのことは学生たちの学びに、大なり小なりの影響を与えているのでしょうが、私たちは未だその変化の意味を正確には把握できていません。教室の IT 化はプロジェクタにとどまりません。大学の教育に関わるのであれば IT のもたらす変化に無頓着でいる訳にはいかないでしょう。

本特集では、学外の先生がたのご協力を得て、拙著を合わせ教室の IT 化に関わる４つの論文を収録しています。

東京学芸大学の加藤直樹氏には、初等中等教育を中心に注目を集めている電子黒板と電子教科書の話題を中心に、教室の情報化の動静を解説していただいています。変化の激しいこの分野の見取り図を得ることができます。

和歌山大学の宗森純氏には、今後の教育でも重要な意味を持つ発想支援という課題について、グループウェアの持つ可能性の探究についてご寄稿いただきました。人の思考とコンピュータの新しい関わりを探る取り組みは、教室の IT 化の有り様を考えるとき、大きな示唆を与えてくれます。

東京大学の中澤明子・林一雅氏には、IT を活用した革新的な教室環境とそこでの授業のトライアルを紹介していただいています。KALS は未来の大学教室のあるべき方向の一つを指し示しているようです。

最後に拙著では、これまでの大学授業向けグループウェア開発の経験などを踏まえ、今後の WEB と授業の関係についての見通しを整理してみました。

本特集を通して、徐々に芽吹いていく教室の IT 化の潮流をお伝えできれば幸いです。

・教育活性化のための電子ツールの最新動向----------加藤 直樹
・発想支援のためのグループウェアの最新動向----------宗森 純
・「駒場アクティブラーニングスタジオ（KALS）」における授業事例----------中澤 明子・林 一雅
・大学授業でのグループワークと WEB----------西森 年寿